

野川台自治会

あいさつ運動の輪

発行：野川台自治会
 発行者：野川台自治会長
 川崎市宮前区
 TEL.
 協力：西野川小・野川中PTA、おやじの会
 一葉会、すずの会、青少年指導員
 地区社協ほか
 編集：福祉の風土づくりを進める会事務局



家庭・学校・地域のさらなる連携をめざして



あいさつ運動を始めてから 9 年目、子どもたちの思いに応じて「あいさつの輪」、
 さりげない「お節介の輪」の拡がりを通じて、信頼と支え合う“絆”づくりを皆さんの手で！

「あいさつ」がもたらす和・輪

野川中学校 教頭 高村 寛

野川中学校へ着任して四か月が経ちました。毎朝出勤して正門をくぐると次々に“おはようございます”の言葉があちこちから飛んできます。少し疲れた朝でも、生徒の元気なあいさつを聞くと疲れも吹き飛び今日も一日がんばろうという気持ちになります。これは中学校に限ったことではありません。学区の小学校へお邪魔した時も、児童から元気なあいさつが返ってきます。ごく自然にあいさつがなされるのは、自治会をはじめとした地域の方々のあいさつ運動の成果だと感じます。

挨拶には、「問答を交わして相手の悟りの深浅を試みる」という意味もあるそうです。挨拶を交わす際の相手の表情やトーンなどで、相手の体調や機嫌などが察せられ、相手を気遣うこともできます。あいさつを通して地域の輪ができる・地域が和むということは、とても素晴らしいことだと思います。

心に迫る声

西野川小学校 児童支援担当 林 雅子

「おはようございます。」「こんにちは。」「さようなら。」地域の方々に見守られ、野川学区の子どもたちは、皆明るい笑顔・照れくさそうな優しい顔で挨拶をしてくれます。子どもたちが落ち着いた生活を送れているからだといつも感謝しています。挨拶とは「相手の心に押し迫る・向かっていく第一歩」と聞いたことを思い出します。「挨拶」・「押し」・「迫る」という意味だと知り、人と接する第一歩という意味が自分の中で言葉として理解できました。確かに挨拶の声は、心を穏やかにしてくれる正に心に押し迫る声です。しかし、毎日元気な声ばかりではありません。私たちはあさの子どもたちのあいさつの声はその日の心の動きを伝える最初の意思表示だと受け止めています。困っている事柄は様々ですが、子どもを見守る私たち大人は、常に温かい心で子どもたちから発せられる心に迫る声をしっ

かりと聴き、移り変わる心の動きを常に察知する細やかな努力を怠らないよう過ごしていきたいと思います。



西野川小学校、雨の日も、元気に！

地域と一緒に寿楽園納涼祭！

9 回目を迎えた手作り感たっぷりの寿楽園の納涼祭、今年は寿楽園と野川台自治会共催で 8 月上旬の土曜日に開催。施設の利用者とその家族そして地域の老若男女併せて 600 名を超える人が参加。今年は職員の方はもとより地域の方の浴衣姿も多くみられました。西野川小学校の PTA によるゲームコーナーや施設手製のから揚げ、たこ焼き、カキ氷などが飛ぶように売れるなどお祭りを盛り上げていました。

舞台では、野川中学校の吹奏楽部のダイナミックな演奏や地域の子どもの「和太鼓」などが演じられ、今年も心待ちにしていた利用者も家族もいつもと違った雰囲気の中で思い思いに心を通い合わせ楽しんでいる様子が伺えました。また浴衣姿でかき氷を無心に口に入れているお子さんの様子が昔の自分を思い出したのか微笑みながら見守っているお父さん、お母さん達の姿……。最後は、フィナーレとして施設の新人職員による恒例の「よさこいソーラン」で締め、地域とのつながりを大切にしたい心温まる一日でした。



子どもで一杯 模擬店



よさこいソーラン



支え合う地域コミュニティへの期待

—— あいさつは、気づき、見守りのはじめ ——



“地域包括ケアシステム”で何だろう！

その風土づくりは“あいさつ”から

10年後の平成37年には、高度経済成長時代を支えてきた団塊の世代の全員が、75歳以上になります。そんな超高齢社会を迎え、経済・社会的に住み慣れた地域で誰もが今のまま安心して暮らし続けられるのか！日々の生活の中でふと不安に思うことがあります。

先般アリーノで「地域包括ケアシステムで何だろう！」をテーマとした地区社協とみかど荘地域包括支援センター共催の研修会がありました。区長さんご参加下さり、講師の川崎聖風福祉会の中澤伸先生から、私たちは、住人というより地域の生活者として、自立支援から共生支援の視点に立って、将来「医療、介護、生活支援サービスを一体的に受けられる支援体制“地域包括ケアシステム”」の構築に取り組むことが求められているとし、特にその前提になるのは、やはり地域の人が気づき、助け合う向う三軒両隣・互助の大切さを熱く語っておられ、教えられる点が多々ありました。私たち自治会や西野川小、野川中のみならず、野川小、南野川小を含めた野川地域で進めているあいさつ運動は、気づき、支え合いの風土づくりにつながっているのだと受け止めている方も多いかと思えます。そんなことにつながる最近の事例を紹介します。

(事例)

7月の暑い日の夕方、野川台の交差点付近で、体調を崩された一人暮らしの高齢者が、うずくまっているのを男子高校生が見つけた心配そうに声をかけているところを、通りかかった近所の方二人が、介抱し、支えてあげながら自宅にお連れしました。その後すぐ近所の方々からみかど荘地域包括支援センターに連絡が入り、職員が何度か自宅を訪問したり関係機関等と連絡を取り合い、今は近くの施設で元気を取り戻しているとのことです（ミニネットワークの一例）。

笑顔であいさつ

野川小学校 校長 中川 久資

学校では毎朝8時に昇降口が開き、1日の学校生活が始まります。笑顔で「おはようございます」この言葉はとても気持ちがよく心が晴れやかになります。

夏休みに郷里に帰省したとき、朝や夕方に犬の散歩をしていると、会う人すべてが自然な感じで「おはようございます・こんにちは」と声をかけてくれました。

とても心が温まりました。どこでも自然体であいさつが出来るような子どもたちを育てていくには、地域・保護者・学校が一体となって取り組んでいくことが大切だと思います。気持ちよくあいさつし、お互いの気持ちが通じ合う、「おはようございます」と言えるような学校になればよいと思っています。

今後とも地域の皆様方や保護者の皆様方のご支援ご協力をよろしくお願いいたします。



野川小学校、気持ちよくあいさつ！

絆づくり 社協の大きな役割！

宮前第一地区社会福祉協議会

会長 青木 寅治

地域の皆様にご協力を頂いております宮前第一地区社会福祉協議会は、町会・自治会、民生委員・児童委員、保護司、社会福祉施設関係者、学校関係者、その他のご協力を得て運営されております。

主な事業は、高齢者の食事会、地域の音楽会、親子で楽しむおはなしの会、広報紙の発行、ちょこっとベンチの設置、高齢者のバス旅行など行っております。これらの事業は、地域の連携、交流を深めることなどを目的としております。その財源は、皆様にご協力をいただいております賛助会費、町会・自治会の助成金、福祉祭りの収益金等で賄っております。今、地域で一番必要としていることは、高齢者の問題（独居高齢者、認知症、孤独死）だと思います。そのため地域では皆様のご協力により地域の絆を深め、互助社会をめざさなければならないと思っています。最後に自治会等で以前より進めております「あいさつ運動の輪」は地域の連携、絆を深める原点だと思っています。



標語パネル (地区社協編)



ひとことで みんなの顔に 花がさく

—— 人と人との心をつなぐ ——



えがおであいさつ

西野川小学校 2年

西野川小学校がおこなっている、あいさつうんどうは、きもちがこもっていればこもっているほど、あいさつをした人もきもちがよいし、あいさつをされた人も元気になると思います。ほくもあいさつをすると明るいきもちになれてうれしいです。(おのざわ ひかる)

ほくは、きもちをこめてあいさつすることが大じだと思いました。どうしてかという、きもちをこめたら、たくさんの人があいさつをかえしてくれたからです。これからあいさつで、たくさんの人とつながりたいです。(にれき もいち)

ほくがしてもらってきもちがよかったあいさつは、ともだちのあいさつです。どうしてかというともだちから「おはよう。」とえ顔でやさしく言ってくれたからです。だから、ほくも自分からあいさつできるようになりたいと思っています。(おの りょう)

福祉まつり ボランティアに支えられて!

来て・見て・食べて・参加して!をテーマに宮前第一地区社協主催の「第18回福祉まつり」が春に野川小学校で開催。模擬店、バザー等の他に



車イス 事前の練習

体育館に福祉体験コーナーも設けられ、野川中学校の生徒20名が春休みにもかかわらず、ボランティアとして参加して下さいました。車椅子の体験、自助具の展示・体験などにベテランの職員の助手として、福祉コーナーを笑顔で支えて下さいました。そうした中でお年寄りや障害をもつ方へ自分たちはどう向き合い、どうサポートしていったらよいのか、その一端なりを学んでいたことがひたむきの活動からうかがえました。



南野川小学校、目と目をあわせて!



毎週、サミットメンバーを中心に!

あいさつから広げる心の輪

野川中学校 生徒会本部副会長 3年 関 愛海

あいさつをする、これは当たり前の事です。しかし、あいさつは人の印象を決めるきっかけになったり、自分や相手を気持ち良くしたりする力を持っています。当たり前の事でも、あいさつは心がこもっていないと意味がないと思います。野川中学では、生徒会本部や各委員長からなるサミットメンバーを中心に、毎週あいさつ運動を行っています。朝のあいさつをきっかけに笑顔をつくり、気持ち良く一日をすごすことができれば良いと思います。また、友達や先生、地域の方々に、普段から気持ちの良い自然なあいさつができるよう、あいさつ運動の輪を広げていきたいです。

目と目 心と心をあわせて

南野川小学校 校長 木下 孝文

「おはようございます。」子どもたちとのこのやり取りで一日が始まります。4月に着任してから子どもたちのあいさつの良さには、本当に感心してきました。毎朝パワーをたくさんもらっている気がしています。

私は、朝本校の校門で子どもたちとあいさつを交わすことを通して子どもたちの身体と心の様子を確かめています。どの子どもも気持ちが前向きな時には、しっかりと目と目を合わせてあいさつができるようです。また、毎日のあいさつが目と目を合わせ、心と心を合わせて行えるようにするためには、本校の教育活動を充実させていくことが大切であるとも考えています。ある意味子どもたちのあいさつは、本校の教育活動に対するバロメーターでもあります。気持ちの良いあいさつのやり取りは、人間関係を良好にし、教育活動に良い影響を与えます。また良い教育活動は、子どもたちの自尊感情を育み、生き生きとしたあいさつを生み出します。それらの相乗効果でより多くの笑顔のあふれる南野川小学校を築いていきたいと考えています。今後とも地域ぐるみのご協力をおねがいいたします。

学校と地域のつながり



学校・地域のイベントや児童・生徒の活躍は地域の誇り

(文責は編集事務局)

あんなところまで 飛んだ！

「4, 3, 2, 1」の合図でロケット発射！

「あんなところまで飛んですごいでしょ！」とちょっぴり自慢げな子、「少し高く上がり過ぎちゃった！」と残



念がる子、「おねえちゃんより飛んだ！」と手をたたく子……。これは7月上旬に開かれた「おやじの会」主催のペットボトルロケットの発射光景です。

今回は西野川小学校の体育館に75名、特に1、2年生の親子が多く集まりました。おやじの会のメンバーから、ペットボトルロケットの作り方を教わり、中には翼のバランスが大事と独り言を言いながら、悪戦苦闘しているお父さんチームも、なんとか完成し、一時間半後には、子どもと一緒に校庭の発射台に向かう。中には、回を重ねるうちに、コツを覚え、記録更新している子もいるなど、夏休みの親子の楽しい触れ合いの日でした。(主催者は、おやじの会佐藤会長)

運動会・体育祭でのドラマ！

西野川小学校の運動会

どの学年も、練習の成果をのびのびと発揮し、保護者も地域の人も席を離れることなく熱心に応援している姿が印象的でした。



みんなで大玉送り！

た。最終得点が、「紅組465」、「白組465」と発表とされる。一瞬見ている方も水を打ったように静まり、その後子どもたちへの惜しめない拍手が鳴りやまない感動した場面でした。

野川中学校の体育祭

他の学校にないトラックの“のり面”に張られた大きな“ブロックテーマ”を背に、男子も女子も汗まみれになりながら野川魂



組立体操バッチリ！

を発揮し青春を謳歌していました。それぞれ素晴らしい演技等の中にも、2・3年生の“組立て体操”の気合いの入った演技は、多くのギャラリーの手に汗をかかせるほど魅了しました。

ハンドボール部 市大会で堂々優勝！

“16:14”の僅差！この夏、全国でも強豪校の一つである西中原中学校を接戦の上で破り、優勝した時のスコア。顧問の



“優勝 全員集合”

先生から、「両校の技量はそう変わらない、差があるなら当校の生徒の方が気力の面で勝っていたのかもしれない」とのこと。部員は、中学に入ってからボールに馴染み、それ故生徒の気力を育むものは、日々の練習・練習、それもただ漠然とした練習でなく、必ず決勝戦まで行く“追い越せN校”という目標をもって汗・水流すことが大切。そのためには、朝練や放課後の練習の半分を走ることに費やし、体力・持久力をつけながら、練習試合での一瞬の判断力、瞬発力を磨いてきました。部員にとって、練習はかなりきついものの、チームワークのとれたダイナミックなシュートやスピーディーな試合運びに魅力を感じていることが伺えました。(顧問は、大房先生)

吹奏楽部 地域で楽しい演奏をめざして！

力強く、華やかで楽しい演奏！ 今年も吹奏楽部は、市大会で優勝し、県大会でも優秀な成績を収めました。部員80名の大所帯のこともあって、土曜日に全員集合し、みんな楽



寿楽園サマーコンサート

しみながら心をつなげて夕方まで練習に励んでいます。この夏、生徒の期待に応じて先生は基礎練習の教本を作り上げました。吹奏楽のジャンルは、童謡から演歌、ジャズ、クラシック等幅広いのですが、年間計画をたて、練習の成果を発表するコンクールのほかに、福祉施設でのサマーコンサート、地域の人も対象にした納涼祭、虹色の音楽会、さらにはディズニーリゾートでの演奏を通じて、多くの方と喜びを分かち合っています。これからも地域のお子さんから大人まで楽しんでいただける演奏会を大事にしていきたいとのことです。(顧問は、白井先生)

編集後記

10年後には、団塊の世代の全員が75歳以上になるとのこと。そうした中で、今般、地区社協が、将来を見据え、絆づくりにつながる標語パネルと、クリアファイルを作成してくださったことは、学校はもとより地域全体のあいさつ運動にも弾みがつくと歓迎しています。

(日高、原、山本、後藤、岩本、辻本、前之園)